



市民活動・ボランティア活動情報誌

2022年6月15日

No.203

福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会



「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています

特集 障害のある方の通学を見守る

ひとりの思いからはじまる

支えあいのまちづくり



浅川天良さん(左)とガイドボランティアの庄司さん(右) (4月8日撮影)
→詳しくは特集で

福祉の仕事 ガイドヘルパー p4

もくじ

Let's try ボランティア コロナ禍の中でのボランティア活動
イチから手作り、学生たちのスマホ講座 p5

市社協情報 第6期 横浜市市民後見人養成課程説明会を
開催します p6

ここから最新号と
バックナンバーを
ご覧になれます

福祉よこはま

検索



障害のある方の通学を見守る

ひとりの思いからはじまる 支えあいのまちづくり

支える・支えられるという関係ではなく「おたがいさま」と思える双方向の関係が、それぞれのくらしを豊かにしていく。それは同じ地域に住む人として出会い、日々のくらしに溶け込む、自然なつながりの中でこそ育まれるものではないでしょうか。2人の自閉症の兄弟、家族、ボランティア、地域、それぞれの小さな出会いやつながりを通して“一人ひとりに寄り添い、ともにくらす”ことの大切さについて考えていきます。

浅川兄弟のお母さんにお話を聞きました！

一人でがんばり続けなくてもいい…

弟の天良（たから）が小学校に入学した当時は、自分で20件以上電話をかけて通学に付き添うガイドヘルパー（※1）を探しました。小学校3年生のときに移動情報センター（※2）ができ、そこではじめてガイドヘルパーではなくガイドボランティアを紹介してもらったんです。

実は兄の蒼良（そら）が小さいころ、“蒼良らしさ”に寄り添うのではなく、集団に適應することを求められた経験があり、地域には受け止めてもらえないのではないかと不安がありました。しかし私の心配をよそに息子のペースに合わせ、優しく寄り添ってくださり、親には見せない一面や成長にも気付かせてもらいました。息子たちは専門的な支援を受けるだけの存在ではなく、**地域の方とひとりの人として出会い、お付き合いができるんだと教えてもらいました。**「地域にいても大丈夫」という安心感をいただいています。子どもたちにとってもこれからも**地域でくらし続けていくために、人との関わりを通して学ぶ大切な経験**になっています。

「おたがいさま」の関係でまちを豊かに

一人ひとりの違いや良さを同じ色に染めてしまうのではなく、**違いを尊重しあえることが、誰にとってもくらしやすい豊かな社会につながると**思います。息子たちは人と同じようにできないこともありますが、彼らにしかできないことがあります。その価値に気づける社会であってほしいです。



浅川さんと息子の
天良さん(中学3年生・左)、
蒼良さん(高校3年生・右)

※3 浅川兄弟の日々を記録した映画
「そらくんとたからくん」
(にじメディアホームページ)



冒頭シーンのみご覧いただけます。

※1 ガイドヘルパー・ガイドボランティア …… 屋外での移動が困難な方が外出する場合に、付き添うヘルパー・ボランティア。

※2 移動情報センター …… 外出に困難を抱える障害のある方等からの相談に応じ、支援制度の案内やサービス事業所の紹介、コーディネートを行います。

通学に付き添うボランティア



蒼良さんの
ガイドボランティア
鈴木さん

地域情報紙でボランティアの募集を見たことがきっかけで、蒼良さんが中学生の頃から4年の付き合いになります。最初は紹介してくれた移動情報センターの方も付き添ってくださり、安心して始めることができました。特別なことではなく、近所のよく知った場所でのちょっとしたお手伝いで、無理なく続けられています。週2日彼と会えることが、私にとってもくらしのリズムになっていて、生活の一部です。心穏やかに登校できるように、本人のペースを大切にしながら、「いつもどおり」を心がけています。



天良さんの
ガイドボランティア
庄司さん

天良さんが小学生の頃は道すがらたくさんの方に興味を示し、時間をかけて歩いていました。中学生になった今は寄り道も少なくなり、手をつないで一緒に歩くなど、少しずつ成長を感じられることが嬉しいです。

定年後からボランティアを始めましたが、活動を通じた関わりの中で自分も心がおだやかになり、やさしい気持ちで人に接することができるようになりました。困っている人がいると、気負わずに自然と声をかけられるようになり、自分でも変化に驚いています。

寺尾第二地区 社会福祉協議会

困ったときに相談できる、支えあえる土壤づくり ～寺尾第二地区社会福祉協議会の取組～

施設見学から始まった「障がい理解のための講座」は、「障害があっても、地域で共にくらすように」という思いでもう10年以上続いています。

今年1月には浅川さんご家族の日常を記録した映画「そらくんとたからくん」(※3)を上映し、お母さんからお話を伺いました。実際に地域に住んでいる方の思いを伺うことで、身近に感じることができ、「今を悔いなく生きるお二人の姿」やボランティアの方の「彼らとの関わりがこころを温かくしてくれる」というお話が印象的でした。

主任児童委員をしていたころ、障がいがあるお子さんの機能回復の体操ボランティアに、地域の多くの方が協力してくださる様子を拝見して、こちらが声をかければ地域には手を貸してくださる方がたくさんいらっしゃる実感しました。

支えあえる土壤づくりにむけて地域の力を信じて発信し続けていくこと、地域に必要なことを一緒に考えていける仲間を増やしていくことが、地区社協の役割だと思います。



寺尾第二地区社協
副会長 皆川さん(右)、
事務局長 中西さん(左)

馬場地域 ケアプラザ

“つながり”から“つながり”へと広がる地域の力

同じ地域に住む住民として困ったときには支えあえるように、ケアプラザと一緒に“障がい理解の普及”に取り組んでいます。移動情報センターからボランティアの相談があった際にも、地域の方に声をかけると、協力してくださる方、また、自分では難しくても知り合いに声をかけてくださる方と自然とつながっていきます。

障害のあるなしにかかわらず、まち全体で互いに、声をかけあえる関係づくりにむけて取り組んでいます。



馬場地域ケアプラザ
地域活動交流コーディネーターの若林さん

鶴見区移動情報センター

困っている人に届くように ～移動情報センター～



鶴見区移動情報センター
中野さん(左)、齋藤さん(右)

通学等の外出で困っている方が一人で抱え込むことがないように、学校や地域の方等多くの方に移動情報センターを知っていただきたいです。(中野)

障害のある方と関わったことがない方でも、まずは一度活動してみませんか。お互いの思いを尊重しながら、無理なく続けられるよう心がけています。(齋藤)



どこに相談したら
いいかわからない…

まずは、移動情報センターへ
ご相談ください。

移動情報センターについて
詳しくはこちら
(横浜市ホームページ)





ガイドヘルパー

居宅介護事業所『森のピーターパン』で
ガイドヘルパーとして働く

た か ば せ い ち
鷹羽 誠一さん に聞きました

**この仕事は、利用者さんの生活に
いろどりを添え、世界を広げるものと
実感しています。**

この仕事を選んだきっかけ

- ▶ 前職は理容師をしていました。高齢の方も来店しやすいようにヘルパー2級の資格を取得し、店と事業所を掛け持ちで働いていました。サービス業で培ったコミュニケーション力で自然と利用者さんと接することができ、徐々に心を開いてくれることを実感できたことでやりがいを感じ、理容師を辞めてこの仕事をするようになりました。

日々の仕事

- ▶ 朝は利用者さんを通所先まで送り、事務所に戻ってから今後の支援計画案を作成するなどの事務仕事をしたり、新規の外出支援に対応したりします。サービス提供責任者として、利用者さんとガイドヘルパーの初めての外出には必ず同行し、支援して欲しいこと、してはいけないことを伝えるようにしています。午後は利用者さんのお迎えに行き、そのあとは夜勤の職員に引き継ぎます。

心がけていること

- ▶ 利用者さんとヘルパーは1対1での支援が基本となります。利用者さんに入り込みすぎず、逆に引きすぎてその方の気持ちがわからなくならないように、ちょうど良い距離感を心がけています。通学や通所の移動支援は安全を第一に考え、余暇支援では、最終的にはご本人が楽しくなれること、外出を楽しめるようになることを目標に日々、取り組んでいます。

喜び、やりがい

- ▶ 利用者さんの中には外出が難しいだろうと思われる人もいました。最初は散歩から始めたり、意思表示をするためのコミュニケーションができるようなカードを使ったりと工夫しました。徐々に外出が増えるようになると、手を挙げて「さようなら」と返してくれるようになり、外出時は自ら靴を履いて準備もしてくれるようになりました。言葉を発することが難しくても、コミュニケーションは多種多様です。障害があろうがなかろうが目の前の「人」と向き合っていると実感することのできる仕事です。

この仕事を目指す人へ

- ▶ 外出を通して、人との関わりを嫌がっていた方が、笑顔で触れ合えるようになったり、エスカレーターに乗りなかった人が動く歩道にとっても喜んだり、意外なものが食べられることに気づいたりときまざまな発見があります。多くの利用者さんは、手伝いがあれば遠出もできるし社会参加もできるようになりますので、少しずつご本人の希望を広げていきたいと思っています。まだ、この仕事を知らない人も多いですが、ガイドヘルパーの仕事に興味を持ってくれたら嬉しいです。

ガイドヘルパーとは

障害者の外出を支援するヘルパーのことです。外出時、主に車いすを利用する方、知的障害や精神障害のある方など、一人での外出が難しい方の支援をします。特別支援学校への通学、作業所への通所、日用品の買い物、余暇のお出かけや散歩など社会参加に欠かせない職種の一つです。

「森のピーターパン」 (社会福祉法人 同愛会)

障がいのある方の生活の安定と、自立と社会参加の促進を支援することを目的に、移動支援、居宅介護、重度訪問介護、行動援護などの多様なサービスを行っています。



ガイドヘルプサービスとは



(横浜市ホームページ)

◀ 余暇支援で行った水上バスからの夕日。穏やかな時間が流れています。

◆ この記事に関するお問合せは ……………
横浜市社会福祉協議会 企画部企画課 ☎ 045-201-2090

横浜市内の福祉人材に
関する求人情報 ➡

横浜市介護人材関連情報



Let's try
ボランティア



イチから手作り、 学生たちのスマホ講座

コロナ禍の中での
ボランティア活動

学校法人岩崎学園情報科学専門学校(神奈川区)の学生が、高齢者のICT※¹理解と活用に役立てばと、「反町活き粋シニアの会※²」の皆さんにSNS※³活用のスマホ講座を開きました。テキスト作成や当日の進行など学生による手作りの講座は参加者に大変好評でした。

※¹ 情報処理や通信技術、サービスなどを総合的に示す「Information and Communication Technology」の略称

※² 反町地域ケアプラザを拠点に60～80代のメンバーが健康で心豊かにシニアライフを送るための交流、体操などを行っています。

※³ インターネット上で人々と交流できるサービスを総合的に示す「Social Networking Service」の略称

今回の講座のきっかけ!

講座当日に 初めて学生全員が 顔合わせ

同校の濱口先生から「学生が学んでいることを活かして地域の困りごとの解決につなげたい」、「地域の方と交流することが学生にとって貴重な経験になってほしい」と、ボランティアセンターに相談がありました。今回の企画に手を挙げた学生5人は、コロナ禍の中で対面機会がなかなか取れない中、SNSやオンラインミーティングなどで準備を重ねました。

講座スタート!

当日は、講師役の学生を中心に進行し、サポート役の学生が参加者一人ひとりに対応する形で講座を進めました。時間の経過とともに、和やかな雰囲気が会場に広がり、参加者は楽しそうに操作方法を教わっていました。

学生が作成したテキストには、スマホやSNSの基本操作・友だち登録・グループトーク・スタンプや写真を送る、といった項目が画像入りでわかりやすくまとめられていました。



地図を拡大表示したり、小さくて読みにくい文字を大きくしたり、など、よく使う操作です。

▲イラスト付きで専門用語を解説
(当日のテキスト)



▲学生が講師を務めました



▲参加者へ丁寧に説明する学生



▲終盤は参加者、学生入り混じっての講座になりました

参加者の感想

- 若い人のエネルギーをもらいました。シニアもスマホに強くなる必要性を実体験できました。これからも講座を開催してほしいです。
- 一対一で丁寧に手取り足取り教えてくれてわかりやすかったです。
- これからはスマホでお買い物や旅行の予約ができるようになります。
- わからないことを身近にいた学生さんにすぐに聞くことができたのがとても良かったです。



学生の感想

- 普段自分がやっていることを言葉で表現することが、これほど難しいとは思いませんでした。今後は、相手が分かるようによい説明ができたと思います。
- テキストにないことを質問されてどのように答えたらいいか困ったこともありましたが、何とか説明ができました。二次元コードの使い方を聞かれ、説明を分かってもらえた時はうれしかったです。この経験を生かせるように頑張りたいです。
- 参加者の一人が「デジタル社会に置いていかれるのではないかと不安」とおっしゃっていたので、今後は「ものづくりプロジェクト」という授業で高齢者がICTのツールやサービスを練習するためのアプリを作りたいです。



濱口先生から一言

今後は—

ボランティアの世界に触れるいい機会になったと思います。学生にとって初めての取組だったこともあり、体験のなかで生まれた気付きも多かったようです。この取組を継続し経験を積み重ねていくことで、学生自身新しい活動を考案することや作品づくりなどにつなげていってほしいと思います。

横浜市ボランティアセンターより

ボランティアセンターでは、地域のために何かをしたいという想いと地域の困りごとを活動につなげるお手伝いをしています。

あなたも趣味やスキルを活かしたボランティア活動をしてみませんか?

具体的な活動については
お近くのボランティアセンターに
ご相談下さい

横浜市内18区の
ボランティアセンター

ホームページはこちら▶



この記事や
ボランティア全般に
関するお問合せはこちら

横浜市
ボランティアセンター

ホームページはこちら▶



第6期 横浜市市民後見人養成課程説明会を開催します

『地域でひとに寄り添い、ともに歩む実践～市民後見人になりませんか～』

横浜市では、認知症や知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない方を支援する地域の身近な存在として、市民が後見活動を担う「市民後見人」を養成しています。

令和4年度の第6期養成課程の開講にあたり、説明会を動画配信で行います。

※養成課程の参加には説明会視聴が必須です。申込締切：6月23日(木)
※新型コロナウイルス感染症拡大防止により予定が変更となる場合があります

市民後見人養成・
活動支援事業
ホームページ



【問合せ】横浜生活あんしんセンター
☎045-201-2009

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和4年1月28日～4月26日 新規受付・継続受付分

団体会員

- ユークス総合建築 株式会社 様
- 特別養護老人ホーム 今宿ホーム 様

個人会員

- 相澤 直樹 様
- 加藤 仁美 様
- 齋藤 史郎 様
- 高橋 昌三郎 様
- 仲田 敏捷 様
- 中丸 良久 様
- 星崎 清美 様
- 山田 篤 様
- 我妻 八重子 様

詳しくはホームページをご覧ください ▶

【問合せ】横浜市社会福祉協議会 総務部
☎ 045-201-2096



みんなのきもち あいがとう

みなさまからお寄せいただいたご寄付は、地域の助けあい、
支えあい活動のため、有効に活用させていただきます。



寄付金の活用紹介

退所時・退所後アフターケア支援金事業

横浜市社会福祉協議会では、皆様からのご寄付を活用し、
既存の制度で解決できない困りごとに対して取組を進めて
います。今回は寄付活用の一つである「退所時・退所後アフ
ターケア支援金事業」をご紹介します。

この事業は施設を退所する児童等の就労や就学など、退
所後の自立生活を支援するため、令和3年度より本会児童
福祉部会※と連携し、始めました。支援金は施設を通して児
童へ渡され、令和3年度は計37名の児童の支援につながり
ました。令和4年度も引き続き実施し、新たな門出を迎える
児童の支援に取り組んでいきます。

※児童福祉部会…本会の会員である児童養護施設など60を超える
施設にて構成されています。

施設・児童からのお礼の声

施設から

この支援で継続的・安定的に退所
後のアフターケアを行えることになり
ました。今後も近くに存在し続け、関わ
りながら背中を押してあげたいです。

児童から

お陰様で、希望していた大学への
進学を果たすことができました。将来
の事で不安はありますが、自分の夢の
実現に向けて努力したいと思います。



▲児童福祉部会 部会長・副部会長

取組の報告は
ホームページを
ご覧ください。



横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています
☎045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同 令和4年1月1日～3月31日受付分

善意銀行 金銭寄付者

- 榎本 健吾 様
- 一般社団法人 横浜シンフォニエッタ 様
- 株式会社 ベルク フォルテ 森永橋店
お客様一同 様
- MHIパワーエンジニアリング 株式会社
横浜統括部 様
- 一般財団法人 よこしんふれあい財団
理事長 大前 茂 様
- 株式会社 ぐらしの友 横浜営業所 様
- 土志田建設 株式会社 様
- 匿名(1件)

善意銀行 物品寄付者

- 株式会社 日立物流南関東 様
- 日立物流「まごころ基金」 様
- 木下サーカス 株式会社 様
- 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設
整備支援機構 様
- ENEOSシステムズ 株式会社 様

- 学校法人 駿河台学園 様
- 株式会社 横浜スタジアム
代表取締役社長 藤井 謙宗 様
- 公益財団法人 みずほ教育福祉財団
理事長 塚本 隆史 様

よこはま あいあい基金寄付者

- 匿名(1件)

障害者年記念基金寄付者

- 株式会社 大宮ゴルフコース
代表取締役 甘糟 澄子 様

福祉基金寄付者

- 梅澤 肇 様
- 吉田 あき子 様
- 笹元 博美 様
- 小菅 佐稚子 様
- 登尾 享子 様
- 宮崎 朋子 様
- 柏倉 志乃 様
- 田島 淑江 様
- 石川 育 様

- 藤澤 智明 様
- 広橋 茂 様
- 有田 奈美 様
- 石井 美名子 様
- 本田 桂子 様
- 清水 晶子 様
- 渡辺 洋子 様
- 秋元 仁美 様
- 白藤 香織 様
- 近江 美保 様
- 医療法人 LEADING GIRLS 様
- 齋藤 美貴 様
- 川田 将之 様
- 萩原 孝一 様(2件)
- 株式会社 フロンティア 様
- es SOLUTIONS 株式会社 様
- 横浜南陵ロータリークラブ 様
- 横浜幸銀信用組合
理事長 呉 龍夫 様
- 匿名(31件)

ヨコハマ寄付本寄付者

- 栗飯原 智佳子 様
- いづみの会 様(2件)
- サンシティみなとみらいEAST 様
- 株式会社 ニューフレアテクノロジー 様
- 横浜市旭区社会福祉協議会 様
- 横浜西区社会福祉協議会 様
- 株式会社 日立ハイテクフィールドینگ 様
- 三井住友信託銀行 上大岡支店 様
- 老人福祉センター ユートピア青葉
横浜市もえぎ野地域ケアプラザ 様
- 横浜市社会福祉センター利用者一同 様
- 横浜市港南区社会福祉協議会 様
- 匿名(58件)

横浜市
ボランティア
センター



※寄付者については、
横浜市ボランティア
センターのホーム
ページにも掲載して
います

みんなの声



前号の感想

「福祉よこはま」は初めて持ち帰り、すみずみまで読みました。ボランティア活動にはとても興味があり、できるだけ参加したいと思いますが、2020、2021年はコロナさわぎで参加できず残念です。いくつになっても元気な限り、できる事はやっていきたいと思っています。

(旭区 S.O)

里親にも沢山の種類があることを知りました。家庭的な環境で育まれることは、目には見えないけれど沢山あると思います。そしてひとり立ち、巣立ちにむけ、自分自身の成長を、家族に見守られながら一步步いて二歩下がる位でちょうどいいと子育てをおわってそう思います。そのような経験をさせてあげたいなあと思いました。ごくごく普通の家庭でされていることに関心を持ちました。

(横須賀市 H.T)

里親や生活支援について知識が少ない人は多いと思います。この情報誌によって、福祉の知識も広げ、必要としている方々に思いを寄せていくきっかけになりました。

(港北区 U.M)

さまざまな事情で暮らす方々を支援する「母子支援員」さんが、どのように関わっているのかが分かり、よかったです。生活を共にする日々の関わりの中で、「大きなお家の大家族になる関わりを大切にされている」子どもの成長を見守り、安心して暮らしていくために、とても大切なことだと思います。

(泉区 フーミン)

知的障がいのある方のグループホームからの応募です。職員と利用者さんで一緒に読んでクイズの答えを探しつつ楽しみました。「答えはここだよ」と理解して読み込んでいました。カラフルで読みやすかった様です。

(保土ケ谷区 鏡 恒治)

災害が起きた時の復興に向けた活動をしていくためには絶対に必要な磯子区災ボラセンターの方々、訓練、お疲れ様です。大変頼もしくありがたく感謝しております。

(泉区 J.S)

「里親」についての記事が良かったです。丸山さんのインタビュー記事にあるように「里親をする人」というのは子育てを終えて、裕福な方々がするものというイメージを抱いていましたが、丸山さんご自身が共働きでしかもお子さんと里子と一緒に育てているとの事で更に驚きました。でも、子どもにとっては普通の家庭で家族みんなで食事をしたり、生活する事が成長過程でとても大切な事だと改めて感じました。

(保土ケ谷区 K.F)

福よこクイズ

ご応募・ご感想
お待ちしております！

障害者就労支援事業所 アルカヌエバ台村町事業所

「ミニポーチ」プレゼント！

アルカヌエバ台村町事業所は緑区役所の北向かいにある障害者就労継続支援B型の事業所です。ポーチ・財布・アクセサリなどの全製品を手作りし、本革ならではの味わいをお楽しみいただいております。事業所の他、毎週月・金曜日は緑区役所前、第1・3水曜日は地下鉄中山駅にて販売しております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。



色はお任せください

ポイントカードも
入ります

- Q1** 特集:「ガイド〇〇〇〇〇〇」は、同じ地域に住む住民同士が、通学や外出等で困っている方のお手伝いをするボランティアのことです。(カタカナ6文字)
- Q2** 福祉の仕事:さまざまな障害により一人での外出が難しい方に、外出に必要なサポートや介助を行う職業を「〇〇〇ヘルパー」と言います。(カタカナ3文字)
- Q3** 市社協情報:認知症や知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない方を支援する地域の身近な存在として、市民が後見活動を行う人を「〇〇後見人」と言います。(漢字2文字)

応募方法

はがき・FAX・Eメールにて、
右に記載の項目をご記入のうえ
お送りください。

抽選で**15名**の方に
プレゼントを差し上げます。

締め切り:
令和4年7月29日(金) 必着

【応募先】

〒231-8482
横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協
「福よこクイズ」係

FAX: 045-201-8385

Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp

【個人情報取扱】

※応募に関わる個人情報については、当選者への
発送及び福祉よこはま紙面作成の参考のためにのみ
利用させていただきます。

【項目】

- 1) Q1~3の答え
- 2) 郵便番号・住所
- 3) 氏名(ふりがな)
- 4) 年齢 5) 電話番号
- 6) 福祉よこはまの入手方法
- 7) 福祉よこはまの感想
- 8) 「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否(匿名希望の場合はイニシャルを記載)



前号202号の福よこクイズの答えは、Q1:養育 Q2:母子生活 Q3:ふくまち でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

(特集)「違いを尊重しあえることは、誰にとってもぐらしやすい豊かな社会につながる」という浅川さんからのコメントはまさしくそのとおりだと思います。私たちの日々の生活でも、違いを尊重し、おたがいさまの関係ができればもっと居心地が良くなると思いました。

次号▶No.204 令和4年9月発行予定

〈発行〉
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090
FAX: 045-201-8385
Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL: https://www.yokohamashakyo.jp

〈デザイン〉
株式会社 オールスタッフ

「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。



横浜市社協は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

広告



会員募集中！

会員登録
無料

シニア世代の「働く・学ぶ・参加する」を支援します



お仕事紹介

技能講習会

サークル・ボランティア

入会条件

- ★横浜市内在住の概ね60歳以上の方
- ★お仕事・仲間作り・社会参加したい方

会員登録の方法

- ★オンラインで登録(所要時間20分程度)
- ★来所して登録



〒233-0002 横浜シルバー 検索
横浜市港南区上大岡西1-6-1オフィスタワー13階

TEL: 045-847-1800



令和4年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	[新設]特定感染症重点プラン
保険金の種類				
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円	550円

商品パンフレットは
コチラ



(ふくしの保険
ホームページ)

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション)）

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）